

問1 茨城県は全国トップクラスの農業生産を誇りますが、特にはくさいやねぎ、ほうれんそうといった鮮度が重視される野菜の生産が盛んです。このように、大消費地である首都圏の近くに位置し、高速道路などの交通網を利用して農産物を供給する農業の形態を何と呼びますか。 (2026年 福島公立入試 類似)

1. 近郊農業 2. 高冷地農業 3. 促成栽培 4. 抑制栽培

問2 関東地方の群馬県沼田市などで栽培される農産物を、新鮮な状態で都市部へ供給するために行われている工夫について述べた文として、正しいものはどれですか。 (2022年 長野県公立入試 類似)

1. 高速道路網を利用して輸送時間を短縮し、早朝に収穫した品をその日のうちに店頭と並べる工夫。
2. 貨物列車による定時輸送を徹底し、一般道路での渋滞を完全に回避して全国へ配送する工夫。
3. 船舶による大量輸送を導入し、輸送時間をかける代わりに鮮度を保つ特殊な冷蔵技術を用いる工夫。
4. 一般道路のみを使用して、ガソリン代や高速道路料金などの輸送コストを徹底的に削減する工夫。

問3 日本の主要な農業県のデータを比較した資料において、茨城県は「耕地一ヘクタールあたりの農業産出額」が全国平均を大きく上回り、トップクラスにランクされています。この数値から読み取れる茨城県の農業の特徴として、最も適切なものはどれですか。 (2016年 京都公立入試 類似)

1. 土地利用の効率が高く、限られた面積から多くの収益を上げている。
2. 農業に従事する人口が極めて多く、労働力に頼った生産を行っている。
3. 一戸あたりの農地が非常に広いため、生産の総額が大きくなっている。
4. 他県に比べて農地の価格が安いため、新規就農者が増加している。

問4 千葉県の主要な道路の整備は、当時の日本の社会情勢と深く関わっています。1960年代から1990年代にかけての交通インフラの整備と、その背景となった出来事の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2018年 千葉県公立入試 類似)

1. 池田内閣が所得倍増計画を掲げた1960年代に、京葉道路が開通した。
2. 公害問題を受けて環境庁が発足した1970年代に、東京湾アクアラインが開通した。
3. 地球温暖化防止京都会議が開催された1990年代に、東関東自動車道の宮野木から富里間が開通した。
4. 所得倍増計画が進められていた1960年代に、東関東自動車道と東京湾アクアラインが同時に完成した。

問5 関東・中部地方の農業産出額をまとめた資料において、千葉県は畜産業の産出額が1,100億円を超えて高い割合を占めています。また、別の県ではキャベツやホウレンソウなどの産出額が大きく、高冷地での生産が特徴となっています。これらの農業の背景について説明したものとして、最も適切なものを選びなさい。 (2022年 兵庫公立入試 類似)

1. 千葉県は東京などの大消費地に近いため畜産業が盛んであり、群馬県は冷涼な気候を活かした野菜生産が盛んである
2. 山梨県は畜産業を主産業としており、群馬県は果実栽培が農業産出額の中で最も大きな割合を占めている
3. 千葉県は標高の高い土地を利用して野菜を作り、長野県は大消費地に近い立地から畜産業に特化している
4. 群馬県は稲作を中心とした農業を行い、千葉県は一年中温暖な気候のみを利用して高原野菜を生産している

問6 ある港の貿易統計において、輸出総額よりも輸入総額の方が圧倒的に多く、主な輸入品目として衣服やコンピュータなどが上位を占めている理由として、最も適切な説明を次のうちから選びなさい。 (2018年 愛知公立入試 類似)

1. 背後に大規模な消費地を抱えており、海外で生産された生活関連の製品を多く運び込む必要があるため
2. 周辺に石油化学コンビナートが集まり、輸入した原油を加工して工業製品として輸出する拠点となっているため
3. 内陸部に広大な工業団地があり、そこで生産された自動車の世界各地へ輸出する役割を担っているため
4. 周辺に国際空港があり、電子部品などの小型で軽量な高付加価値商品を航空機で輸出入するため

問7 日本の工業地域のうち、群馬県、栃木県、茨城県の内陸部を中心に発展した地域について説明します。この地域は、かつて京浜工業地帯などに集中していた工場が、用地不足や地価の高騰を避けて移転してきたことで形成されました。製品の搬出において、船舶ではなくトラックによる陸上輸送を主軸としているこの地域の名称を答えなさい。 (2022年 山口公立入試 類似)

1. 北関東工業地域 2. 京浜工業地帯 3. 瀬戸内工業地域 4. 中京工業地帯

答え合わせ・解説

問1	答え 1 近郊農業	大都市の周辺地域で、消費地までの距離が近いことを利点として行われる農業を近郊農業と呼びます。輸送距離が短いため、鮮度が落ちやすい葉物野菜などを新鮮なうちに、かつ輸送コストを抑えて市場へ届けられます。茨城県はこの形態の代表例であり、首都圏の台所を支える重要な食料供給基地となっています。一方、高冷地農業は標高の高い場所で涼しい気候を利用する形態、促成栽培や抑制栽培は出荷時期をずらす工夫を指します。
問2	答え 1 高速道路網を利用して輸送時間を短縮し、早朝に収穫した品をその日のうちに店頭並べる工夫。	道路網が整備された現代の農業では、特に都市近郊において「速達性」が重視されます。沼田市から東京の市場への移動時間を例に見ると、高速道路の利用により一般道路の約半分の時間（約150分）で到着できます。この時間の短縮が、農産物を「新鮮なうち」に販売することを可能にしています。
問3	答え 1 土地利用の効率が高く、限られた面積から多くの収益を上げている。	「耕地一ヘクタールあたりの農業産出額」は、土地の生産性を表す指標です。茨城県はこの数値が高いことから、限られた農地を効率的に利用し、価値の高い作物を生産していることがわかります。これを「集約的」な農業と呼びます。単に産出額の総計を見るのではなく、面積あたりの効率を見ることで、その地域がどのような形態の農業（大規模で広範な農業か、小規模でも高付加価値な農業か）を行っているかを分析することができます。
問4	答え 1 池田内閣が所得倍増計画を掲げた1960年代に、京葉道路が開通した。	1960年代は高度経済成長期であり、池田勇人内閣が「所得倍増計画」を推進して経済の拡大を図っていました。この時期のインフラ整備として千葉県では京葉道路が開通しました。一方、環境庁の発足は1971年（1970年代）であり、同時期に整備が進んだのは東関東自動車道です。東京湾アクアラインの開通は1997年（1990年代）であり、地球温暖化防止京都会議（COP3）と同じ時期にあたります。
問5	答え 1 千葉県は東京などの大消費地に近いため畜産業が盛んであり、群馬県は冷涼な気候を活かした野菜生産が盛んである	千葉県は首都圏という大消費地に隣接しているため、鮮度が重視される牛乳や肉類を供給する畜産業が発達しています。一方、群馬県は北部の標高が高い地域の気候を利用して、夏にキャベツなどを作る高冷地農業が盛んです。山梨県は果実（ブドウやモモ）の栽培が有名であり、畜産が中心という説明は誤りです。
問6	答え 1 背後に大規模な消費地を抱えており、海外で生産された生活関連の製品を多く運び込む必要があるため	東京港のように、輸出額よりも輸入額が極めて多い港は、その背後に人口が密集する大規模な消費地が存在するという背景があります。衣服やコンピュータ、魚介類などは都市部で暮らす人々の生活に直結する「消費財」であり、それらを海外から効率よく取り込むための玄関口としての役割を果たしているため、輸入超過の傾向が強くなります。
問7	答え 1 北関東工業地域	北関東工業地域は、東京近郊の過密化を避ける形で内陸部に発展した代表的な「内陸型工業」の地域です。群馬・栃木・茨城の3県にまたがり、高速道路を利用した首都圏へのアクセスの良さを活かして、機械や食品などの工場が数多く立地しています。